

# 30代教師の転

起

きる！

失敗やつまずきを転機に、授業力を高める！



「いかに生徒をやる気にさせるか」  
思考させ、学ぶ意欲を引き出す

岐阜県立岐阜北高校

大西

護先生

38歳

私が乗り越えてきたもの

生徒に「試された」私

論理を組み立てて正解を導く数学の面白さを伝えたい。そんな思いを抱き、教師の道を選びました。初任の農業高校での最初の授業は衝撃的でした。緊張しながら教壇に立つと、たくさんのボールが自分めがけて飛んできたのです。そんな様子を見て私は、「生徒に試されている」と感じました。ここで

ひるんでは、生徒に数学の面白さを伝えることなど到底できない。そんな思いから、積極的に生徒とかかわろうと机間巡視を行い、どの生徒にも声を掛けていきました。

解説にも生徒とのやり取りを増や

いかに生徒とかかわるか

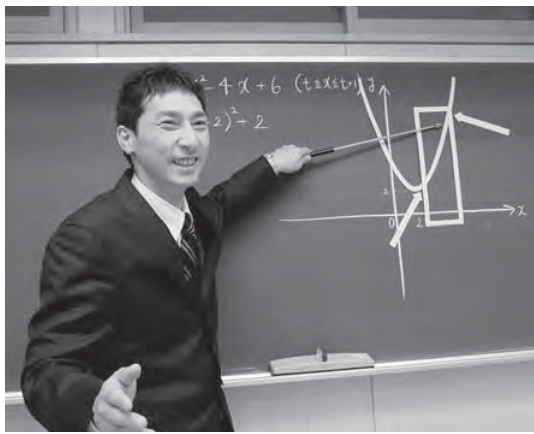
し、私があえて計算を間違え、生徒に指摘されると大げさにリアクションをするといったパフォーマンスも取り入れました。やがて、全員の目がこちらを向き、「自分たちに真剣に向き合う教師なら受け入れる」という意思を感じるようになったのです。

2校目の定時制高校では、多くの生徒の表情に生活の悩みや不安が表れていました。授業だけでなく、何事に対しても無気力さが見て取れたのです。彼らと信頼関係を築くことが急務だと

感じ、授業中はもちろん、授業以外の時間にも「最近、頑張っているな」などと声を掛け続けました。「先生が自分に関心を持っている」と生徒が感じてくれたからでしょう。授業への反応が少しずつ変わっていきました。授業を興味深そうに聞いたり、私の冗談に笑ったりするようになったのです。

定時制高校での指導に手応えを感じ始めた頃、私は教育委員会の交流事業に手を挙げました。他県でもっと自分の教育観を広げたいと思ったからです。赴任先は鹿児島県の進学校に決まりました。私は、難関大を目指す生徒に数学の魅力伝えたいと意気込みました。ところが、進学校の授業進度は私の予想をはるかに超えていたのです……。

生徒に寄り添い、学びに向かわせる指導



おにし・まもる ◎教職歴14年。同校に赴任して4年目。担当教科は数学。1年生担任。  
岐阜県立岐阜北高校 ◎全日制／普通科／共学。  
11年度入試では、国公立大は、北海道大、筑波大、東京大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大などに計199人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、早稲田大などに延べ956人が合格。

## そして、これからも挑み続ける目標

### 効率的な解法を伝える指導

進学校の教師として、少なくとも受験に対応できるだけの学力は付けさせなければならぬ。そう思った私は全国の難関大の入試問題を解き、受験数学の全体像を必死で理解していきました。受験でどのような力が求められるかを教師が把握してこそ、限られた授業時間を有効に使えると感じたからです。力を付けられるようにプリントや教材を作り、生徒に与えていきました。しかしその指導は、必ずしも志望実現には結び付きませんでした。センター試験の自己採点を終えた生徒が悔しい涙を流すのを目にした時、自身の指導

の至らなさを痛感しました。数学に課題があると思っていなかった生徒の中にも数学で得点が伸びなかった者があり、自分の認識の甘さを感じました。これまでの定期テストの答案を見直すと、課題が2つ見えてきました。1つは、計算を確かめる丁寧さを育てていなかったこと。もう1つは、効率的な解法の習得に力を入れる余り、思考力を要する応用問題に正解するだけの力を鍛えられていなかったことです。進学校に求められる指導とは何か、真に気付いた思いでした。

### 生徒に考えさせる指導を求めて

進学校の生徒の力を伸ばすには、計

算の緻密さを養いつつ生徒に考えさせる指導が必要だ。鹿児島で得た教訓を胸に、教職12年目の35歳の時、岐阜県岐阜北高校に赴任したのである。

私は進学校に適した指導を求め、先輩の先生方の授業を見学しました。グループでの問題演習や学び合いをさせる先生、未習事項をあえて生徒に問う先生など、さまざまな指導を参考に自分の指導を工夫しました。正確な計算力を付けるため、生徒の答案から計算の仕方を分析し、つまずきやすいと感じたところを重点的に授業で解説しました。また、発問や問題演習の機会を増やし、知識を活用して考える時間に充てました。「教師のかかわり方次第

## 「考えているから待って」と言われる授業

で生徒の学習意欲は高まる」という進路多様校での学びを生かしたのである。徐々に、生徒の表情に考える楽しさが表れてきました。私が答えを言おうとすると、「今、考えているから待って！」と生徒に言われることもあるほどです。最近ようやく、進学校の生徒を引き上げる指導が出来つつあると感じています。2011年度は自主学習の第一歩として、1年生に家庭学習用プリントを配布しています。教師として基礎はしっかり固めた上で、「いずれは自ら学びに向かってほしい」という思いはますます強まりました。10のうち3を教師が教え、残りの7は自ら学び取る生徒を育てること。この理想を今後も追求したいと思っています。

## 大西先生 の 授業実践

### Q&A



**Q** 生徒自身に考えさせる指導をするために、授業でどのような工夫をしていますか？

**A** 学び合いを応用したペアワークを取り入れています。毎回の授業で問題演習をする際、自力で問題に取り組みしてから、ペアで解説し合います。問題が解けた生徒は、他者に説明することでより理解が深まり、問題が解けなかった生徒は、相手が友だちなら、些細な疑問でも納得するまで質問できると考えています。

誰とペアになるかもポイントです。生徒には、「お互いの力を伸ばせる相手とペアになりなさい」と伝えています。自分の弱点を踏まえて相手を探すことも、考えさせる指導の1つなのです。

**Q** 生徒の層別の指導でどのような工夫をしていますか？

**A** 学習の定着度に応じて指導を変えることで、生徒の学習意欲を引き出そうとしています。まず全生徒を対象に、家庭学習用の「日々プリント」を毎日配布しています。これはA4判で、表に教科書の例題と同程度の難度の問題2題、裏にその解答・解説を載せています。数学の授業がない日もプリントを解くことで、学習習慣の定着を図っています。

成績上位層に対しては、学校が配布するチャート式問題集を解くよう指導しています。下位層には、放課後に個別指導や補習を行っています。授業を聞いていれば確実に解けるような教材を使用し、解ける楽しさを実感させ、数学に対する関心を高めようという狙いです。

### メッセージをお寄せください

◎更なる授業力の向上を目指す大西謹先生へメッセージをお願いします。同じ課題を抱えている同世代の先生の共感の言葉、独自の授業スタイルを確立された先輩からの応援やアドバイスなどを自由にお寄せください。編集部より、大西先生へお届けします。

下記のe-mailアドレスに  
メッセージを送信ください

[view21\\_since-1975@mail.benesse.co.jp](mailto:view21_since-1975@mail.benesse.co.jp)